

画像技術と歴史民俗学研究

Image Processing Technologies for Historical and Cultural Research

安達文夫・新谷幹夫

はじめに

- ①歴史民俗資料と画像技術
- ②絵巻画像のデジタル化
- ③CG技術の応用
- ④歴史民俗資料デジタル化の意義

むすび

【論文要旨】

歴史学、民俗学が研究の対象とする資料は、それを利用する上で、それぞれに制約や課題がある。画像技術を適用することにより、次のことが可能となる。絵や図が描かれた平面的な資料は、大型なものであっても、見る箇所をシームレスに変え、自由に拡大・縮小して閲覧できる。立体物資料は、任意の方向からの観察ができ、遠隔からの利用も可能となる。拡大して細部を見るようになると、研究開発を要する。文献資料を多く公開するには、デジタル画像による提供が実際的である。全文テキストが得られる場合に画像と併用することで高度な利用が実現する。映像資料は膨大な量が記録されるが、デジタル化することにより有効な利用ができる。CGの応用も進展すると考えられる。

歴史民俗資料をデジタル化することにより、広く研究者が利用できるようになるとともに、実物資料を扱う上での制約を補うことによって、新しい利用が可能となる。